

PCB含有量調査(案)に対する委員コメント

委員名	コメント
大嶺委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年度にPCB含有量とco-PCB含有量の相関性のデータが得られている。</li> <li>・相関関係を評価するためのデータとしては、十分な数である。</li> <li>・全体の相関係数は0.306と低い値を示しているが、co-PCB含有量の高い値(二つ)を除くと、相関関係0.731であり、高い相関性が得られている。</li> <li>・データによっては、co-PCB含有量が高い値を示すことがあるが、この場合でもPCB含有量について安全側の推定になるため、この調査方法で問題ないと思われる。</li> </ul>
小野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・co-PCBが150ng/g以上の2検体はDXNs由来の汚染と考えられるので、本来のPCB汚染とは区別して考える必要がある。これらを除いた相関を求める必要がある。</li> </ul>
梶山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の考え方にも一理あると思います。</li> <li>・しかし、従来やってきたのであれば、そのデータとの連続性を担保する意味で、やるべきとも考えられます。</li> <li>・PCBとCo-PCBとの相関性ですが、私には、2つの相関線がスプリットしているようにも見えます。</li> <li>・もともと、サンプルにより、相関は異なるはずなので、データによっては、大きく外れるものが出て、それを除外すべきかどうか慎重さが重要です。</li> <li>・PCBは環境中で、あるいは、焼却処理等の過程で、化学構造に変動があるので、生産ラインのデータは参考にはなりますが、必ずしも上記相関性を担保するものではありません。</li> <li>・結論として、費用的に過大な負担になるという事情がなければ、PCBの調査もやるべきではないかと考えます。</li> </ul>
大東委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の委員会で示された考え方で問題ないと思います。今回お送り頂いた資料も、その考え方の根拠になります。</li> <li>・懸念事項として、住民の方々は、PCBとダイオキシン類PCB(コプラナーPCB)の違いを理解されているでしょうか。もし、違いの理解が不十分であるならば、2ページ以降の資料も開示した方が良いでしょう。</li> </ul>
樋口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCBとコプラナーPCBとの相関グラフおよび相関係数に基づきコプラナーPCB 50ng/gを超えた場合にPCB含有量調査も実施する案は妥当と考えます。</li> <li>・相関図のB-3, H16-1の2点はデータ母数から異常値と思われるので、相関は強いと判断して良いと思います。</li> </ul>